



やる気と笑顔にあふれ ともにかがやく 学校をめざして

曾根小だより

HP <http://www.nishikawa-sone-e.city-niigata.ed.jp/>

新潟市立曾根小学校
新潟市西蒲区曾根 750 番地
全校児童 172 名（家庭数 138）
令和 7 年 1 2 月 8 日発行



「認め、励まし、任せて、見守る」



校長 古井丸 裕三

先日、恒例の児童会行事「曾根小フェスティバル」を行いました。子どもたちは、趣向を凝らした様々な遊びの「お店」を出店しました。当日は、「幼保こ小連携」の一環として、みずほ保育園の園児のみなさんからも参加してもらいました。慣れない小学校の雰囲気戸惑いながらも楽しく遊んでいってくれました。

子どもたちはこの行事をととても楽しみにしていて、当日まで熱心に準備に取り組んでくれました。時には焦る気持ちから友達とけんかになってしまうこともあったようですが、それも本気で取り組んでいることの表れだと思います。最後には同じ目的に向かって力を合わせ、どの学年も開店にこぎ着けることができました。今年もアイデアいっぱいのお店が並びました。名前を見ているだけでその楽しさが伝わってきます。

- ・先生のなぞをとけ ・レーザーよけゲーム ・たからさがし ・アスレチック ・早口言葉大会
- ・イタリアンブレインロード宝探し ・ハラハラドキドキ30秒ぴたりチャレンジ ・なぞときめいろ
- ・わにわにパニック ・わなげ ・ウサギハザードシーズン2 ・ゲームセンター

「お店」のクオリティには学年の発達段階による差が見られましたが、どの学年のお店にも共通する点がありました。それは、「来てもらった友達に楽しんでほしい」というおもてなしの気持ちです。曾根小の子に限らず、多くの子どもは「自分が楽しいかどうか」を最優先にして行動します。時には、「相手のことなどお構いなし」という行動も見られます。その点から考えると、「相手が喜んでくれること」「ありがとうと言ってもらえること」が自分の喜びや楽しさにつながるという経験ができたことは、とても価値があると思います。

校内を見て回ると、他にもよい姿が見られました。「お店にきた友達に積極的にコミュニケーションを取る姿」「言葉や話し方に気を付けて丁寧に説明する姿」「説明をしっかりと聞いてルールやマナーを守って遊ぶ姿」「低学年には難しいルールを臨機応変に変更する姿」「遊んだ後に『ありがとうございました』と伝える姿」「友達と相談しながらより良い方法を求める姿」「自分から楽しさを見出そうとする姿」など……。

このような姿のもとになっているのは、毎日の授業を通して培われる資質や能力です。授業を行う教職員は、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力」などの「学力」の定着を図るとともに、学ぶことへの意欲や自分で考える力、失敗から学ぶ力、目標を立てて学習を計画する力などの「学習力」を育てることを目指しています。そして、これらの「学力」や「学習力」は、学んだことを活用し存分に発揮できる場を与えられることにより、実感を伴った確かなものになるのです。

私たち大人は、結論を急ぐあまり、子どもたちに「正解(らしきもの)」を押し付けがちです。そんな時でも一呼吸おいて、「あなたは思うのか？」と問い返し、自分で考え判断することを促し、そのための時間と場を与えて任せてみる必要があるのではないのでしょうか。曾根小学校では、「認め、励まし、任せて、見守る」ことを大切にして教育活動を行っています。そうすればきっと、子どもたちは安心して試行錯誤を重ね、自分で課題を解決できたことについて自信をもつことができるようになるからです。「ともに子どもを育てるパートナー」として歩調を合わせ、ご家庭でも同様の接し方を心掛けていただければ幸いです。

● 児童会「曾根小フェスティバル」 11月28日(金)



受付や案内、説明など、自分たちで役割分担を決めて運営する姿がとても頼もしく見えました。全体の計画・運営を担当した「かしの木委員会」のみなさんも、開閉会式の進行などで活躍してくれました。

●とても有意義な「個別懇談会」になりました 12月2日(火)～4日(木)



第2回目となる今回の「個別懇談会」は、あらかじめ希望のあったご家庭からお越しいただきました。お仕事や家事などでお忙しいところ、お時間を作っていただきありがとうございました。限られた時間ではありましたが、たくさんの保護者のみなさんとお会いして意見交換することができ、とても有意義な時間になりました。子どもたちの健やかな成長を願う気持ちを共有することができ、教職員の励みにもなりました。これからも、担任と保護者の「顔の見える」コミュニケーションを大切にしたいと思います。